



TEL 0766-251-5555
FAX 0766-251-5500
E-mail info@krisouten.com

平成十九年四月二十日
〒九三二〇八〇四
高岡市問屋町四十
有限会社 沖商店発
2019.4.21

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょう』という二つを皆様と一緒に考え、意見を交換し合って、共に研鑽を深めて行きたい。そんな思いで本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無いご意見をお寄せくださいませ。

一 自分さえ良ければ

皆さんは「この世の中で大切と思う人間を順に挙げてください」と言われたらどんな順に並べられますか。私は「自分自身、妻、子供たち、親今はいませんが、兄弟、会社の従業員、得意先、仕入先、友人、親戚、町内の人、その他交流の頻度多い順」ということになりす。これは、人によっては多少違ってくるでしょう。「自分自身」より「子供」と言われる母親は少なくないと思います。人に依つたら「人間よりペット」という人がいるかも知れません。このように、人には其々その人なり大切な人・関心のある人がいますが、この世の中全体の人口に比べれば極僅かです。

人は誰でも、自分に関係あるもの・目の前にある事実にしか関心・思考が届きません。哀れみ(慈悲)の心ひとつ例に挙げて、動物が目の前で苛められたり殺されかけているのを見れば「可哀想に、助けてやろう」という気を起こします。でも、自分の知らぬ所で殺され一片の肉となったものなら、牛・豚・鶏・魚など、元々命あるものも平気で(喜んで)食っています。意識・関心が無いということは、憎しみや妬みもない反面、愛情も思い遣りもないということです。

これが高じてくると他人のことを無視し「自分さえ良ければ」という考えが生まれます。それがさらに高じて「自分だけのことしか考えない・考えられない」というようになり「全体より自分」と言う考え方に凝り固まってしまう。その結果、自分の使命・責任を忘れ、ひいては自分や自分の大切な人を害するようになるか

も知れない行為を平気でするようになります。以下にその例をいくつか挙げて見ましよう。

☆隠蔽・虚言・ごまかし

先、第一四四号第一項「昭和天皇万歳」で、天皇陛下にさえ真実を隠蔽し、全国民を欺いて、日本を惨めな敗戦に導いた日本軍のようすが赤裸々に記録されていた日記の紹介をしました。極力戦争を避けたいかたがた天皇陛下の意向を酌まずに、自分たちの思い(力づくでも)を優先して戦争に突入し、その後の失敗をひた隠しにして、被害を増大しました。ミッドウェイ海戦の大敗北が正直に天皇陛下や全国民に知らされていたら、今回の大戦で日本が蒙った被害は最小限に止まったことでしょう。隠蔽・ごまかしが被害をもたらした最大の例でしょう。

私も沖商店でも同様です。人はしばしば過ちを犯します。それは神ならぬ身で仕方が無いことで、大切なのは過ちを犯した後の処理の仕方です。「ひとりでは良い智慧も考えつくし、反省材料としてことにより良い方法も考えつくし、反省材料として今後の再発防止の糧ともなる。だから過ちを犯した時は事の大小に拘わらず速やかに報告してください」と常々申しておりますが、必ず隠そうとします。事が小さければ「大したことが無いから」と自分で言い聞かせ、事が大きければその重大さに恐れ、尚更、隠蔽しようとしてします。事の真の重大さを認識できない愚かな者が、己の失敗を隠すため、責任者への報告をしない。そのために全体が大ダメージを受けることなど「屁」とも思わない無責任さには本当に腹が立ちます。

この度の北陸電力志賀原発一号機事故隠蔽も同様な思いからでしょうが、八年前の出来事が今まで隠蔽され続けていたこと、その事故が「触発臨界」という重大事故に繋がる状態であった可能性もあることなどの事実が明らかになるにつけ、改めて事の重大さを感じます。この事件は徹底的に糾明され、関係者・責任者は厳罰に処されるべきだと思います。

☆自衛隊員の機密漏洩事件

日本の防衛の最先端とも言えるイージス艦の最重要機密が、一級自衛隊員から洩れたという報道がなされました。まかり間違えば日本の防衛のみならず米国の東方アジア防衛計画全体にも重大な欠陥をもたらす事件であり、中国・ロシアなら死刑、他の外国でも重大な罪に問われるでしょう。平和ボケした日本国ではくびになるのが一番重い罰か。

☆薬害問題

「タミフル」を投与された患者が異常行動をとり、死亡や怪我をしました。使用を保証した日本の医師に販売会社から多額の研究費が渡されていたということです。アメリカの医師は「わが国ではタミフル投与は認可されていないので実例が無い。是非、使用後の結果を知らせてほしい」と言っていた場面が報道されていました。日本人はモルモットか。

「HIVエイズ薬害」も同様。阿倍英医師のお墨付で、血友病患者に投与されたHIVエイズ汚染血液は、当時、厚生省から大勢天下りしたミドリ十字社が大量に販売したもので、その被害は甚大なものになりました。

いずれも一部の製薬会社と医師の「他人は如何でも自分さえ良ければ」の精神の賜物です。

☆球界の裏金問題

「自分さえ良ければ」はプロ野球界の選手獲得の際のルール・約束・申合せ違反と言う形でも顕現しています。自由主義社会では、本来、凡ての事柄について自由であるべきで、プロ野球選手獲得競争に於いても、球団の甲斐性と選手の自由意志に依って入団が決定されるべきです。当初はそうでしたが次第に読売ジャイアンツの様に、お金にものを言わせて、優秀な選手・人気の高い選手を次々と独占するようになると、選手の片寄りが問題になり、ドラフト制度が導入されました。これが真面目に守られればそれはそれで良いと思いますが、また、そのルールの裏を斯く者が出てきました。それがこの度、明るみに出た西武球団や横浜球団の裏金・規則違反の契約金問題です。そんなことをするのなら、元の自由競争にされた方が、よっぽどフェアで理屈に合っていると思えます。他人は縛っておいて自分だけ抜け駆けをする根性の持ち主は、一番悪質な人種です。スポーツに携わるのは勿論、何をさせてもルール違反を犯す悪癖者・犯罪者として、通常の仕事には就けないようにするなど、厳しく罰すべきだと思います。

☆大目岳訴訟に思う

4月16日付け、北日本新聞朝刊「悠閑春秋」シリーズに載っていた投稿記事です。「自然相手の登山は、他のスポーツと違って生命の危険を伴うリスクがある。遭難事故のほとんどは、間違いなく自己過失。山岳遭難に伴う訴訟では、交通事故ほど判例はなく、過失認定にもまだ明確な基準がない。いずれアメリカ型の訴訟社会を迎える」と

とは間違いなく、基準は将来の問題。訴えられた側は、百パーセント無過失が証明されない限り、賠償責任を負うことになる。

平成十二年三月、大目岳で発生した雪庇崩落事故の起訴で、和解勧告が出された。妥当な判断と思う。事故現場の映像では、遺留サックの位置などから、講師も研修生も警戒感がない。現場はそういう状況にあったということだ。講師はベテラン揃い。研修生も大学では部活動のリーダーを務める現役。大目岳がどんな特徴の山か十分予備知識は持っていたし、危険判断もできた。事故が発生すれば、責められ、非難されるのは、当然その原因を作った者であるはず。自己責任の原則に立てば、それだけ過失相殺してしかるべきだ。

最近、事件・事故の問題の本質が、すり替えられる傾向にある。山に絶対の安全はないし、小学生の集団登山でもない。一人前の人間を幼児扱いしては、人格を否定することにもなる。訴訟で勝った負けたと一喜一憂している人々には、救助活動中に、二次崩落によって瀕死の重傷を負った救助隊員のいることを、氣遣った人はいるだろうか。」

(元富山県警山岳警備隊長 谷口 凱夫)

私も全く同意見です。愛する子供を亡くした悲しみはよく解ります。そして悲しみが怒りに。「何故こんなことに」誰かの所為になければ気がすまない。そして訴訟を起し争う。「それならはじめからそんな危険な登山部なんかへ何故入れた」と言いたいのです。自分の子供の育て方に対する反省は毛の先ほどもない。そして、可愛い息子の死を銭にして、せめても気休めとしているその醜悪な心。

今は観光で有名な、黒部峡谷鉄道は、その昔「このトロッコ電車は命の保証をしませんので命の惜しい人の乗車お断り」という約束の下で運行されていました。「素晴らしい景観を見なければリスクも覚悟しなさい」ということです。これに見習い、今後このような危険を伴う実習訓練・教室の募集には「この講習会・研修会は高度な技術の取得を目指していますので生命の危険を伴います。命の惜しい人は応募しないでください」と謳えば良いと思います。

人間は誰でも「自分さえ良ければ」と思っています。でも最低守るべきは「社会に迷惑をかけない」こと。

有限会社 沖商店 代表取締役 沖昌弘

個人メール E-mail 062525@krisouten.com

にこにこ通信への意見をはじめ個人的な連絡は「info@krisouten.com」